
2022年度
敦賀発電所 原子力総合防災訓練における
問題点・課題等の整理

2023年1月11日
日本原子力発電株式会社

1. 問題点・課題等の整理

パンチリスト、事業者での訓練振り返り等において、問題・課題を整理した。

<採点基準>

採点項目	点数		
	3 (影響高)	2 (影響中)	1 (影響低)
①実発災時の緊急時対応の実効性に係るもの	3 (影響高)	2 (影響中)	1 (影響低)
②訓練目標、重点実施項目との関連性	3 (関連高)	2 (関連中)	1 (関連低)
③対策の難度	3 (難度高)	2 (難度中)	1 (難度低)
④当社単独での改善可否	3 (改善可)	—	1 (改善不可)

<問題・課題の整理>

※：採点が20点以上の課題は重要課題（報告書記載）とする。

No	項目	指標との紐づき	問題点・改善	採点※				
				①	②	③	④	合計
1	発電所 振り返り	1	今年度より情報共有の更なる改善として、簡潔明瞭な発言ができるように「常体」での発言に心掛けたが、「常体」による発言ができていない場面があった。 【問題点】簡潔明瞭な発言ができていないと、要点が分からず、重要な事項の間き逃しに繋がるおそれがある。 【改善】今後も簡潔明瞭な発言ができるよう本部運営訓練等で繰り返し訓練を実施し、定着を図っていく。	2	2	1	3	12
2	発電所 振り返り (救助現場)	—	創傷を伴う負傷者がいる場合、受け入れ先の医療機関より、傷の大きさについて問い合わせがある場合があるため、創傷部については、出血の有無と共に、傷の大きさ（約何センチ×何センチ）もあらかじめ情報提供できると良い。 【問題点】創傷の手当後に医療機関から問い合わせがあった場合、再度、包帯を取り除く行為が必要となり、搬送の遅れや負傷者の負担の増加に繋がるおそれがある。 【改善】傷の大きさを報告できるように負傷者の確認時のチェックシートに傷の大きさについて記載できるようにする。	3	1	1	3	9

<問題・課題の整理>

No	項目	指標との紐づき	問題点・改善	採点				
				①	②	③	④	合計
3	公設消防評価	—	<p>指揮所で自衛消防隊から公設消防への引き継ぎ時に使用する活動資料（消火活動時間記録シート、火災マップ等）の重要情報は、赤字で記入したほうが分かりやすい。</p> <p>【問題点】 火災時は整理する情報が多くなるため、黒字のみの情報記載では、公設消防が重要情報をスムーズに把握できず、消火連携開始までに必要以上に時間を要するおそれがある。</p> <p>【改善】 赤字で記入する以下の重要情報の記入方法について教育・訓練を行い、定着を図る。</p> <p><赤字で記入する事項> 消火活動時間記録シートの火災確認、初期消火開始、放水開始／停止、火災鎮圧確認、火災鎮火確認及び火災マップ等に記入する要救助者の位置等情報</p>	3	2	1	1	6
4	公設消防評価	—	<p>今回の訓練において、公設消防隊間（指揮所の中隊長と現場の小隊長）の情報共有は持参したトランシーバーにて実施できたが、トランシーバーが使用できない場合に使用する発電所PHSの運用方法を自衛消防隊と更に調整していく必要がある。（公設消防は発電所PHSの使用に慣れていないため）</p> <p>【問題点】 情報連携が不足すると円滑な消火活動に支障をきたすおそれがある。</p> <p>【改善】 公設消防とPHS使用時の運用方法等を調整していく。</p>	3	2	1	1	6
5	公設消防評価	—	<p>自衛消防隊から公設消防への権限移譲後の指揮所における情報共有（指揮所運営含む）について、公設消防と自衛消防隊が互いに積極的に情報共有すること。（例：自衛消防隊と公設消防の指揮所の位置、公設消防に権限移譲後の活動における相互の情報共有事項の整理）</p> <p>【問題点】 公設消防と自衛消防隊の情報共有が積極的に行われないと、円滑な消火活動に支障をきたすおそれがある。</p> <p>【改善】 公設消防に権限移譲後の相互の情報共有（指揮所運営）について、公設消防と調整していく。</p>	3	2	1	1	6

<問題・課題の整理>

No	項目	指標との紐づき	問題点・改善	採点				
				①	②	③	④	合計
6	OFC アンケート	1	<p>発電所の情報は、発電所本部の連絡担当経由及びCOPにて情報共有を図っているが、より積極的な情報収集ができるように、発電所と本店で接続しているTV会議を聴取できるようOFC事業者ブースにTV会議システムの導入を検討する。</p> <p>【問題点】速やかな情報収集ができないとOFCでの情報提供に影響がある。</p> <p>【改善】TV会議の導入することを検討する。</p>	3	2	1	3	18
7	パンチ リスト (発電所)	6	<p>今回の訓練想定では、アクセスルートが健全ということであったが、地震が発生している場合、アクセスルートの損壊も発生する可能性がある。今後、アクセスルート損壊により発電所が孤立化するなど、より実践的な訓練が望まれる。</p> <p>【問題点】発電所が孤立したような状況を想定した訓練が出来ていない。</p> <p>【改善】次年度訓練シナリオについては、今年度の国訓練のようなアクセスルートが通行できず、孤立化するようなシナリオについて検討する。</p>	3	1	1	3	9
8	パンチ リスト (発電所)	1	<p>情報班が連絡デスクにTV会議の音声が入らないことを、庶務班に具申ししていた。その後、庶務班は連絡デスクにTV会議の音声が入るようにTV会議操作卓にて設定を変更した。(TV会議の設定によるもの)</p> <p>【問題点】情報班の在席する連絡デスクにTV会議の音声が入らないと、状況把握が遅れ、通報文作成が遅れるおそれがある。</p> <p>【改善】TV会議は、立上げ時の初期設定ができるため、TV会議を立ち上げた際、連絡デスクにTV会議の音声が入るように初期設定した。【対応済】</p>	1	2	1	3	6
9	パンチ リスト (発電所)	4	<p>通報文の案を取るために付箋紙を貼って送信していたが、付箋紙は自動給紙で詰まるリスクがあり(以前に詰まりを経験)、改善が望ましい。</p> <p>【問題点】付箋紙が自動給紙に詰まり一斉FAX装置が故障すると、速やかな通報連絡ができなくなる。</p> <p>【改善】FAXの自動給紙に詰まらないように剥がれない修正テープにて案の記載を取ることとする。</p>	2	2	1	3	12

<問題・課題の整理>

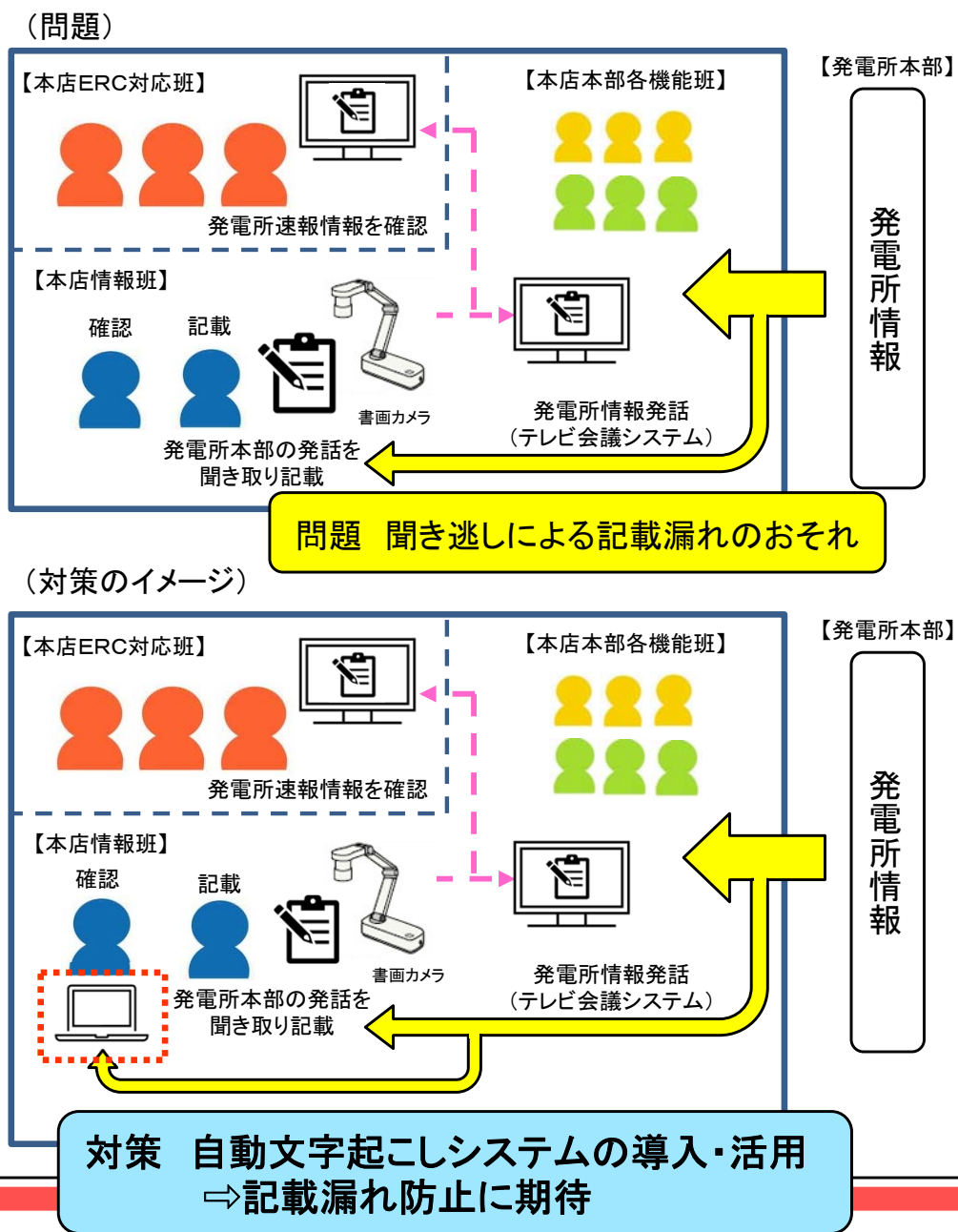
No	項目	指標との紐づき	問題点・改善	採点				
				①	②	③	④	合計
10	パンチリスト (本店)	1	<p>本部の情報班による書画装置を使用した情報共有（書画時系列）について、発話を聞き取る班員個人に期待するところが大きいと思われる。人が変わっても機能するような取組が課題。</p> <p>⇒重要課題（報告書記載）として整理。</p>	3	2	2	3	36
11	パンチリスト (本店)	8	<p>プレス文はある時間で切ってプレス文を作成して会見に臨むことになるが、会見までの間の重要な事態の変化等（次の会見で伝えるのは遅いと思われる内容など）、広報担当者が会見直前（あるいは会見中も）情報班の書画動画を確認することができれば、会見時に伝えられる情報がより充実すると思われる。</p> <p>【問題点】 会見中の会見者に対して、タイムリーなインプット情報が不足していた場合、質疑応答の際に、記者へストレスを与える可能性がある。</p> <p>【改善】 最新情報を会見者に伝達する方法について検討する。</p>	2	2	1	3	12
12	パンチリスト (本店)	3	<p>SPDS画面が見づらい。</p> <p>【問題点】 見間違いにより、プラントパラメータを誤認識することで事故状況の把握に支障を来すおそれがある。</p> <p>【改善】 プラント状況を表示するシステムの導入を検討していく。</p>	1	2	3	3	18
13	本店 アンケート	3	<p>「原子力防災に係る概要資料」のEAL判断フローの文字が小さい。</p> <p>【問題点】 EALに関する情報は、速やかに共有する必要があるが、文字が小さく見づらいことで、EALの情報共有において必要以上に時間を要するおそれがある。</p> <p>【改善】 EAL判断フローのフォーマットを変更することで視認性向上を図る。</p>	2	2	1	3	12

<問題・課題の整理>

No	項目	指標との紐づき	問題点・改善	採点				
				①	②	③	④	合計
14	本店アンケート	3	<p>「原子力防災に係る概要資料」の敦賀1号機SFPに関する記載について、燃料被覆管表面温度評価の記載はあるが、線量評価に関する情報が不足している。</p> <p>【問題点】「原子力防災に係る概要資料」の敦賀1号機SFP線量評価に関する情報が不足している。</p> <p>【改善】敦賀1号機SFP線量評価に関する情報を記載する。</p>	2	2	1	3	12
15	後方支援拠点アンケート	9	<p>電源車に関する情報をチャットで確認し、後方支援拠点内で情報共有を図り、対応を開始したが、情報源である本店庶務班からの電話連絡はなかった。</p> <p>【問題点】後方支援拠点に影響がある情報は、速やかに、かつ確実に確認し、対応することが望ましい。（必要な情報が速やかに、かつ確実に届かないと、対応が遅延する）</p> <p>【改善】後方支援拠点に影響がある情報は、情報源から直接電話連絡することを徹底する。また、後方支援拠点においても、チャット等で必要な情報を確認した場合は、情報源に直接電話連絡し、詳細を確認する。</p>	2	2	1	3	12
16	後方支援拠点アンケート	9	<p>後方支援拠点内で様々な情報が飛び交う中、昨年度の反省を踏まえ、試験的に導入した発話前の呼び鈴や拡声器による重要情報の伝達は有効であった。</p> <p>【問題点】本部長による指示や重要情報の情報共有など、後方支援拠点内の情報伝達の在り方を工夫する必要がある。</p> <p>【改善】有効であった資機材（呼び鈴と拡声器）を常設化することを検討する。</p>	1	1	1	3	3

2. 重要課題に対する改善

<p>(問題)</p> <p>本店情報班は、発電所本部の発話から、発電所情報(時系列)を紙面に記載し、書画装置にて、本店本部及び本店ERC対応班に共有している。本部運営訓練を行い、要員の力量向上及び力量の平坦化を図っているが、発話の聞き逃しによる発電所情報の記載漏れが発生した場合、速報情報の発信が遅れる可能性がある。</p>
<p>(課題)</p> <p>発電所情報の記載漏れ防止</p>
<p>(原因)</p> <p>発電所情報を聞き逃した場合のハード的な要員のフォローアップシステムが不足している。</p>
<p>(対策)</p> <p>発電所本部の発話を自動で文字起こしするシステムを導入し、発電所情報の聞き逃しが発生した場合でも、システムを確認することで、書画時系列への記載漏れを防止する。</p>



3. 重点実施項目の検証結果

(1) 各拠点における住民防護対応の実施

原子力事業所災害対策支援拠点等の各拠点が連携し、以下の住民防護における対応ができることを検証・評価する。

- ・ 住民避難等の状況把握及び共有
- ・ 住民防護における自治体からの要請を想定した対応

<検証結果>

以下の事項が実施できたことから、各拠点が連携した住民防護における対応が概ね支障なく実施できたものと評価する。

- ・ O F C派遣要員は、O F C内で把握した住民避難等の情報を、後方支援拠点に適宜連絡し、連絡を受けた後方支援拠点は、拠点内で情報共有するとともに、本店庶務班へ連絡し、各拠点で住民避難等の情報を共有することができた。
- ・ 自治体派遣要員は、自治体からの要請に関する情報を、後方支援拠点に連絡し、連絡を受けた後方支援拠点は、拠点内に報告するとともに、対応について検討した。後方支援拠点で検討した結果は、自治体派遣要員を通じて、要請があった自治体に伝達することができた。

3. 重点実施項目の検証結果

(2) 火災発生に伴う適切な消火活動の実施

火災及び広範囲に充満した煙に対し、煙充満を考慮した消火活動（排煙含む）及び公設消防に対して消火活動に必要な情報（火災現場状況及びプラント事故進展による放射線量状況）を適時提供できることを検証・評価する。

<検証結果>

以下の事項が実施できたことから、煙充満を考慮した消火活動及び公設消防に対して消火活動に必要な情報の提供が概ね支障なく実施できたものと評価する。

- ① A 非常用ディーゼル発電機室での火災及び広範囲に充満した煙を考慮した消火活動（排煙含む）

【確認結果】

広範囲に充満した煙で視界が悪い状況下を想定し、自衛消防隊は、消火戦略を速やかに立案し、煙発生エリア内の進入時における安全対応（ヘッドライト等の照明を使用、安全姿勢及びロープによる隊員間の安全確保）を実施した上で現場に進入して消火活動及び排煙作業を行うことができた。

- ② 公設消防に対して消火活動に必要な情報（火災現場状況及びプラント事故進展による放射線量状況）の提供

【確認結果】

自衛消防隊は、公設消防が発電所に到着時に速やかに火災現場状況及びプラント事故進展による放射線量状況を情報提供した。また、火災現場到着後から消火活動終了までの間も適時情報提供を実施することができた。

3. 重点実施項目の検証結果

(3) これまでの訓練から抽出された改善事項に対する改善策の有効性の検証
改善事項に対する改善策が有効に機能していることを検証・評価する。

<検証結果>

① E R C プラント班へのタイムリーな情報発信の実施（本店）

前回訓練の課題	改善策	有効性確認結果
<p>①本店 E R C 対応班は、E A L 判断時及び E A L に関連する重要なパラメータ変化時において、E R C プラント班への情報発信が遅れる場面があった。</p> <p>②本店 E R C 対応班は、炉心損傷判断時等の事態が大きく変化している場合において、E R C プラント班へ優先して説明すべき情報を取捨選択して発信できない場面があった。</p>	<p><原因></p> <p>①本店情報班が作成するメモ情報に過不足が生じていたため、情報伝達するための内容説明に時間を要した。また、本店 E R C 対応班総括は情報の補足・修正に時間を要した。</p> <p>②本店 E R C 対応班は、入ってくる情報量の多さと情報伝達が遅延していたため、優先して発信すべき情報の整理が困難となった。</p> <p><対策></p> <p>①本店情報班から本店 E R C 対応班へ過不足なく速やかに情報伝達を行えるようにするため、本店技術班の支援を受けて情報伝達を行う体制へ見直し、要員への教育・要素訓練での定着化を図る。</p> <p>② E R C プラント班に説明すべき優先度の高い情報を明確化し、その情報が本店情報班及び E R C 対応班内で確実に共通認識が図られるルールを作成して、要員への教育・要素訓練での定着化を図る。</p>	<p>有効性確認方法を設定し、左記対策の有効性を検証した。その結果以下のとおり、本店 E R C 対応班は問題なく対応できたことから、本対策は有効であったと評価する。</p> <p>①本店 E R C 対応班は、E A L 判断時及びパラメータ変化時において、本店情報班及び技術班から伝達された情報を用いて、速やかに E R C プラント班と情報共有できた。</p> <p>②本店 E R C 対応班は、重要情報（初発 S E ・ G E 情報、炉心損傷判断情報）について、優先して速やかに E R C プラント班と情報共有できた。</p>

3. 重点実施項目の検証結果

(3) これまでの訓練から抽出された改善事項に対する改善策の有効性の検証
改善事項に対する改善策が有効に機能していることを検証・評価する。

<検証結果>

② E R Cプラント班への情報共有ツールを活用した積極的な情報発信（本店）

前回訓練の課題	改善策	有効性確認結果
<p>①本店 E R C対応班はプラント情報表示システムを活用したタイムリーな情報発信ができない場面があった。</p> <p>②本店 E R C対応班は時系列書画を確認し、重要情報を速報として情報発信できない場面があった。</p> <p>③本店 E R C対応班は系統概略図、設備状況シート、戦略シートを活用し、全体を俯瞰した情報共有ができなかった。また、図面等の共有資料を使用した情報発信ができなかった。</p>	<p><原因></p> <p>①本店 E R C対応班は、プラント情報表示システムを連続して監視する者がいなかったため、パラメータ変化の確認が遅れた。</p> <p>②本店 E R C対応班は、プラント時系列書画（発電所情報）を連続して監視する者がいなかったため、E A L判断情報を速報として情報発信できなかった。</p> <p>③情報共有ツールを活用した具体的な情報発信について明確なルールを定めていなかったため、全体を俯瞰した情報共有ができなかった。</p> <p><対策></p> <p>①メインスピーカ・サブスピーカそれぞれに補助者を配置し、スピーカに情報提供する体制に見直すとともに、要員への教育・要素訓練での定着化を図る。</p> <p>②本店 E R C対応班総括が、班内全体を俯瞰して管理するとともにプラント状況に応じた重要情報等の発信指示を行える体制とし、要員への教育・要素訓練での定着化を図る。</p> <p>③情報共有ツールを活用した積極的な情報発信を行う明確なルールを定めるとともに、要員への教育・要素訓練での定着化を図る。</p>	<p>有効性確認方法を設定し、左記対策の有効性を検証した。その結果以下のとおり、本店 E R C対応班は問題なく対応できたことから、本対策は有効であったと評価する。</p> <p>①本店 E R C対応班は、見直した E R C対応班の体制により、初動対応時、初発 S E・G E判断時、S E42判断時、炉心損傷判断時において、プラント情報表示システムを活用した積極的な情報発信ができた。</p> <p>②本店 E R C対応班は、見直した E R C対応班の体制により、プラント時系列書画を確認し、速報として地震情報等の重要情報について情報発信ができた。</p> <p>③本店 E R C対応班は、15条認定会議後等、適時 C O P（系統概略図、戦略シート）を活用し、全体を俯瞰した情報発信ができた。</p>

3. 重点実施項目の検証結果

(3) これまでの訓練から抽出された改善事項に対する改善策の有効性の検証
改善事項に対する改善策が有効に機能していることを検証・評価する。

＜検証結果＞

③原子炉注水機能喪失を伴う操作におけるプラント影響有無等の説明内容の充実化(本店)

前回訓練の課題	改善策	有効性確認結果
<p>・本店ERC対応班は、ERCプラント班に対して、原子炉隔離時冷却系/常設高圧代替注水系の共通駆動蒸気系統を隔離操作した場面において、高圧炉心注水系機能喪失によるプラントへの影響有無、隔離操作した理由、今後の対応等（以下、「プラントへの影響有無等」という。）についての説明が不足していた。</p>	<p>＜原因＞ ・本店本部及び発電所本部は、蒸気漏えい事象に伴い隔離操作を実施することが手順に既定されており、手順に従った操作を実施したため、隔離操作によるプラントへの影響有無等の情報を共有する必要はないという認識だった。</p> <p>＜対策＞ ・蒸気漏えい等による隔離操作を実施したことで、作動中の機器の機能が喪失することによるSE（GE）に該当する事象とそのプラントへの影響有無等を整理し、本店本部ルール集に反映して要員への教育、要素訓練による習熟及び定着化を図る。</p>	<p>有効性確認方法を設定し、左記対策の有効性を検証した。その結果以下のとおり、本店ERC対応班は問題なく対応できたことから、本対策は有効であったと評価する。</p> <p>・本店ERC対応班は、AL24判断説明時において、SE24の予測説明ができた。また、COP（戦略シート）説明時において、タービン動補助給水ポンプが喪失した場合の対応操作の説明ができた。</p>

3. 重点実施項目の検証結果

(3) これまでの訓練から抽出された改善事項に対する改善策の有効性の検証
改善事項に対する改善策が有効に機能していることを検証・評価する。

＜検証結果＞

④その他改善事項
(発電所)

前回訓練の課題	改善策	有効性確認結果	関連指標
炉心損傷以降の発電所放管班ホワイトボードのMP指示値表示が本部で共有されたMP指示値に対して、かなり遅れて更新されていた。本部では発電所放管班ホワイトボードでMP値を確認する者もいるため、速やかな更新をすべきである。	<p>＜改善＞ 本部にMP値を共有した者は、発電所放管班ホワイトボードを確認し、更新されていない場合は、MP値の更新を班員に指示する。</p> <p>＜検証＞ 発電所放管班は、遅滞なく放管班ホワイトボードのMP値を更新できることを評価者が確認する。</p>	<p>放管班ホワイトボードのMP値は遅滞なく更新していたが、1度だけ放管班ブリーフィング時に5分程度遅れることがあった。</p> <p>【評価者確認結果】 上記結果の改善として、更新が遅れないよう放管班の役割分担や連絡方法について再度検討する。</p>	該当なし
炉心損傷判断直後の第25条報告を作成する際、プラントデータを記入するが、プラントデータの確認を炉心損傷前に実施したため、炉心損傷後の25条報告にも関わらず、プラントデータは炉心損傷前の状態だった。 このため、情報収集総括者は、プラントデータを再度採取するよう指示したことから、第25条報告の作成が通常よりも時間を要した。	<p>＜改善＞ 情報収集総括者は、炉心損傷等主要パラメータ変動が予想される場合は、班員にプラントデータを採取するタイミングを指示する。</p> <p>＜検証＞ 情報収集総括者は、状況に応じてプラントデータを採取するタイミングを指示することができることを評価者が確認する。</p>	<p>情報収集総括者は、炉心損傷予測が本部内で周知された場合に、プラントデータを採取するタイミングを指示していた。</p> <p>【評価者確認結果】</p>	該当なし

< 検証結果 >

④ その他改善事項（続き）

（発電所）

前回訓練の課題	改善策	有効性確認結果	関連指標
<p>原子力防災センターの訓練において、様々な情報を確認するが、各種データが一覧になっていないため、資料検索に時間を要した。</p>	<p><改善> COP、通報文、プレス文等のデータを検索しやすくするため、「情報共有リンク集」を作成する。 <検証> 「情報共有リンク集」を活用し、遅滞なく情報共有が実施できることをプレーヤの振り返りで確認する。</p>	<p>原子力防災センターにて「情報共有リンク集」を活用することで、発電所情報が遅滞なく共有することができた。 【プレーヤの振り返り結果】</p>	<p>該当なし</p>
<p>新型コロナ対策による分散配置として、緊急時対策所A会議室等で対応を行ったが、発電所本部のプレーヤと電話による情報共有だけでは、プラント状況の把握が困難な場面があった。</p>	<p><改善> 緊急時対策所A会議室等に可搬型TV会議システムを配備し、発電所本部情報を傍聴できるようにする。 <検証> 緊急時対策所A会議室等、分散配置されたプレーヤは、可搬型TV会議システムを用いて、プラント状況を把握できることをプレーヤの振り返りで確認する。</p>	<p>可搬型TV会議システムを用いて情報共有を行った結果、発電所本部のプレーヤとの電話での情報共有と大差なかったが、今年度から「情報共有リンク集」を活用したことでプラント状況を把握することができた。 【プレーヤの振り返り結果】</p>	<p>該当なし</p>

<検証結果>

④その他改善事項（続き）

（本店）

前回訓練の課題	改善策	有効性確認結果	関連指標
<ul style="list-style-type: none"> ・模擬記者会見の場所によって、記者への情報量の差が発生するおそれがあることから、プレスセンターの一元化について検討の余地がある。 ・模擬記者会見には、経営層も参加することが望ましい。 	<p><改善></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本店プレスセンターと現地プレスセンターを、Web会議システムを接続して、模擬記者会見を実施することで情報発信の一元化を図る。 ・経営層も参加した模擬記者会見を実施する。 <p><検証></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Web会議システムを用いた模擬記者会見が問題なく実施できることをプレーヤ及び模擬記者役の振り返りで確認する。 ・経営層が参加した模擬記者会見が問題なく実施できることを模擬記者役が確認する。 	<p>本店プレスセンターと現地プレスセンターを、Web会議システムで接続し、経営層も参加した模擬記者会見を実施した。一元化した情報発信を、概ね問題なく実施することができた。</p> <p>【プレーヤ及び模擬記者役振り返り結果】</p>	<p>指標8</p>

< 検証結果 >

④ その他改善事項（続き）

（本店）

前回訓練の課題	改善策	有効性確認結果	関連指標
リエゾン間の連携におけるツールがなかったため、ERC内での活動において、一部情報提供が遅れた場面があった。	<p><改善> インカムを配備し、リエゾン間の連携の強化を図る。</p> <p><検証> リエゾン間で連携し、ERCプラント班に対して遅滞なく情報提供ができることをプレーヤの振り返りで確認する。</p>	<p>インカムを使用することで、各々の対応状況を把握し、連携して情報提供することができた。</p> <p>【プレーヤの振り返り結果】</p>	指標3
本店ERC対応班スピーカは、COP（戦略シート）の説明時において、一部説明に苦慮する場面があった。	<p><改善> COP（戦略シート）のフォーマットを変更し、視認性向上を図る。</p> <p><検証> ERC対応班スピーカは、COP（戦略シート）を用いた説明が問題なく実施できることを評価者及びプレーヤの振り返りで確認する。</p>	<p>ERC対応班スピーカは、COP（戦略シート）説明時において、概ね問題なく説明できていた。</p> <p>【評価者及びプレーヤの振り返り結果】</p>	指標3
緊急時でも迅速な対応が実施できるよう、本店庶務班における外部連絡先（事業者間協力協定・緊急事態支援センター・原子力事業所災害対策支援拠点等）を整理しておくべき。	<p><改善> 外部連絡先の一覧表を整理し配備した。</p> <p><検証> 本店庶務班は、定められたタイミングで外部連絡先への連絡が遅滞なく実施できることを評価者及びプレーヤの振り返りで確認する。</p>	<p>「外部連絡先一覧表」を整理しておくことで、遅滞なく、落ち着いて対応することができていた。</p> <p>【評価者及びプレーヤの振り返り結果】</p>	指標3

< 検証結果 >

④ その他改善事項（続き）

（原子力事業所災害対策支援拠点）

前回訓練の課題	改善策	有効性確認結果	関連指標
地震発生時、建物の異常の有無については報告がなされていたが、通信機器の健全性確認も実施すべき。	<p><改善> 庶務班の役割として、地震発生時の通信機器の健全性確認を追加する。</p> <p><検証> 庶務班は、地震発生時において、通信機器の健全性確認を実施したことをプレーヤの振り返りで確認する。</p>	<p>庶務班は追加した役割通り、地震発生時、通信機器の健全性確認を行い、問題なく使用できることを確認した。</p> <p>【プレーヤの振り返り結果】</p>	指標9
本部立ち上げ時、班員の人数報告はあったが、ホワイトボードに班員の氏名と役割を記載し、明確化すべき。	<p><改善> 各班は、本部立ち上げ時において、ホワイトボードに班員の氏名と役割を記載する。</p> <p><検証> 各班は、ホワイトボードに氏名と役割を記載したことをプレーヤの振り返りで確認する。</p>	<p>各班は、ホワイトボードに要員の氏名と役割を記載することで、各々の役割を明確化した。</p> <p>【プレーヤの振り返り結果】</p>	指標9